

8月21日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(マタイの福音書 第5章 14節)

「天の父が完全なように、完全でありなさい。」と命令をくださった主イエスは、私がいかに不完全であるかも示してくださった。また、主は「あなたがたは、世界の光である。」と私も主にある兄弟姉妹とともに光であると言ってくださる。しかし、これはいったいどういうことなのだろうか？私が心の中でますます小さくなり、イエスがますます盛んになってくださっていくなかで、私たちのうちのイエスが光輝いてくださるのだろう。

8月24日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(詩篇 第126編 5～6節)

主イエスが十字架にかかれたとき、必ず報いがあることを信じておられたと想う。その報いを今、私たちが生きている。

8月29日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(ヨハネの福音書 第14章 6節)

「わたしが道である」と主が言われ、主イエスが真理の道をまっすぐに歩まれる。私は誠実ではないが、誠実な主が手を握ってくださっているので、手をふりほどかずにわきの道を歩いていきたい。私が力尽きると、主が負ぶってくださるので背中につきたくない。

8月31日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(コリント人への手紙第二 第12章 9節 b)

むしろ私の最も弱いところに強く働いてくださってきた主の恵みを想う。主の全知全能の力を無条件の愛を想う。自分の弱さと不完全さが受けいれられていること、日々、変えられていることを想う。